

# 駿河竹千筋細工に 新たな息吹を吹き込む

「LEXUS NEW TAKUMI PROJECT」(主催:LEXUS)は、日本各地で地域の独自性や技術を生かし、新しいモノづくりの挑む「匠」を応援する。

本プロジェクトは2016年、プロジェクトのスーパーバイザーに、放送作家として多くのヒットを手がけ、くまモンの生みの親でもある小山薫堂氏を迎え、生駒芳子氏(ファッション・ジャーナリスト/アート・プロデューサー)、下川一哉氏(意匠研究)らをサポートメンバーに発注。以来、全国の若き匠の挑戦が刻まれたプロダクトは、ふるさと納税の返礼品への指定やロックフェラー家主催のチャリティーイベントへの出品、上海での国際的な展示会への出品など、目覚ましい活躍を見せている。

3年目となった今回は、全国47都道府県から計50名の若き匠が選出。昨年夏、レクサスキャラリー高輪で行われたキックオフ・セッションを皮切りに、サポートメンバーが実際に工房を訪ねるエリア・コンサルティングを経て、匠は自身のアイデアを磨き、プロダクトの制作に取り組んだ。

1月24日、東京ミッドタウン日比谷で行われた発表会では、国内外の百貨店・セレクトショップバイヤー・メディア・デザイン関係者などに向けて自身のプロダクトをプレ

## レクサスが日本全国の「匠」のモノづくりを応援



プレゼンテーションする松田さん

ゼンテーション。世界へ羽ばたく足がかり、ビジネス拡大のきっかけとなる大きなチャンスを手にした。

また当日は、2019年の新たな取り組みとして、全国の匠と、世界的クリエイター(コラボレーター)が、新たなプロダクトを制作するコラボレーションプログラムを発表。コラボレーターである隈研吾氏(建築家)、

廣川玉枝氏(SOMARTACリエイティブディレクター)、森永邦彦氏(ANREALAGE/代表取締役社長・デザイナー)、辰野しずか氏(リエイティブディレクター/プロダクトデザイナー)が登場し、想いを語った。2019年秋頃には、完成したコラボ作品、過去のプロジェクトから生まれた匠たちの作品を披露するイベントを京都の地で開催することを合わせて発表。プロジェクトも一歩一歩進化している。

「伝統」を守りながら「新しい」感覚やテクノロジーを吹き込む。「地域」の特性を深めながら、その魅力を「世界」へ広く発信する。

LEXUSが掲げる「二律双生」を、地方創生×モノづくりの視点で実現するプロジェクト。

静岡県選出の匠、プロダクトデザイナーの松田優さんのモノづくりへかける思いと完成した作品を紹介する。

### 地域にある資源を 冷静な視点で見極める

世界的なモノづくり企業が集積する浜松市。JR浜松駅から徒歩10分程のところに松田さんの事務所はある。地元大学のデザイン研究科を卒業し、デザイン事務所を経て、2013年プロダクトデザイナー事務所「YUMATSU DESIGN」を設立。家具、家電、日用品のプロダクトデザインを中心に、ブランディング、アートディレクションなどを行っている。これまでにも「文房具屋さん大賞」や「グッドデザイン賞2018」などを受賞し、注目を集めてきた。



生駒氏のアドバイスを受ける松田さん

UMI PROJECTでは、一から自由な発想でプロダクトを生み出すという、松田さんにとってはこれまでにない挑戦。「職人の皆さんが中心のこのプロジェクトに参加することで、デザイナーとして何ができるのかを考えると、そこから始めようと思いましたが」と意気込みを語った。

まず、松田さんが着目したのは、音楽のまち浜松に脈々とつちかわれてきた楽器塗装の技術だ。特にピアノ塗装が得意とする、つやのある厚塗りの塗装技術を、楽器以外のモノづくりに生かせないかという試みだった。

昨年6月に行われたキックオフ・セッションに臨んだ松田さん。試作品はそれなりに手ごたえがあり、非凡な着想が評価されたものの、生駒氏が

「デザイナーというご自分の個性や作家性を出す印象が強いと思いますが、私はそれを極力なくしています。メーカーが持っている資源、技術や素材、人柄、地域性など、あらゆる資源の中で、その企業がやるべきことは何かを冷静な視点で見極めて作ることを徹底しています」とプロダクトデザインへのこだわりを見せる。素材をこれから学び、既存の技術を違う視点で捉え、口



浜松の街中に事務所を構える

角はった竹をひごこきで丸くしていく



角はった竹をひごこきで丸くしていく



試行錯誤を重ね、作品の方向性を定めていく松田さんと神谷さん

からの耐久性はどうか、実際どんなモノに使えるのかといった課題がクリアできず断念。次に注目したのが、静岡市を中心とする伝統工芸品「駿河竹千筋細工」だった。

### 美しく繊細な丸いごから生まれた「宙(sora)」

駿河竹千筋細工の発祥は江戸時代初期。駿府城に隠居した徳川家康公が趣味の鷹狩りの餌箱を竹細工で作らせたことが始まりとされている。

後期には岡崎藩士が、清水猪兵衛に細工の技法を伝え、菓子器や虫籠がつくられ、東海道を行き交う旅人の評判となった。駿河竹千筋細工の特徴は繊細で美しい作品を生み出す丸いご。松田さんはこの技法に着目し、伝統工芸品の新たな可能性にチャレンジすることにした。

タッグを組むのは、静岡市の神谷恵美さん。小さいころから工作が大好きだった彼女は高校2年生で駿河竹千筋細工の魅力にひかれ、卒業後の道に進んだ数少ない女性職

人の一人だ。打ち合わせを重ね、竹と異素材のガラスを組み合わせた籠でエリア・コンサルティングに臨んだ。サポートメンバーの生駒氏と川又俊明氏から、使い手に用途を選ばせ、想像させたらどうかというアドバイスを受けた。

透き通ったガラスによって籠に入れたものが宙に浮いているように見えることから作品名も「宙(sora)」と決まった。

プレゼンテーションでは、▽複雑な加工を避け、量産性を高める▽編みの部材の代わ

りにガラスを使用し繊細さを引き立たせる▽かごごめの技法を応用し、スタッキングに利用したことなどを説明。サイズや形の変更など今後の駿河竹千筋細工の展開も提案した。

今回のプロジェクトを終えて、松田さんは産地への貢献が一番のテーマだったという。「産地の職人さんたちにどれだけ新しいアイデアを提案できるかですね。今回の作品づくりで実現した3つのアイデアを提案し、伝統工芸の可能性をもっと発展させることが狙いです。これまでの仕事では量産というテーマを追って、機械生産による均一で効率の良い製品を主に手掛けてきました。しかし、今回のプロジェクトで、でき上がった作品を見ると、竹ならではのぬくもり感があり、手仕事の魅力や価値を再認識しました」と振り返る。

作品づくりに共に取り組んだ神谷さんも「新たな取り組みによって、異素材との融合や技術の応用など、多くの刺激を受けました。ぜひ今後の作品づくりに取り入れていきたい」と笑顔で語った。



完成プロダクト「宙(sora)」



使い手によって用途もさまざま

## 広告

企画・制作 LEXUS NEW TAKUMI PROJECT 実行委員会



スーパーバイザー  
小山 薫堂氏

1964年6月23日 熊本県天草市生まれ。日本大学芸術学部放送学科に通う。「進め!電波少年」や「料理の鉄人」など、数多くのヒット番組の企画・構成に携わる。執筆活動の他、京都造形芸術大学副学長、地域・企業のアドバイザー、下鴨茶寮主人などを務める。「くまモン」の生みの親でもある。



プロダクトのイメージをデザインに落とし込んでいく松田さん



松田 優  
静岡/プロダクトデザイナー

1986年静岡県浜松市生まれ。静岡文化芸術大学デザイン研究科を修了後、デザイン事務所を経て、2013年浜松市内にプロダクトデザイン事務所[YU MATSUDA DESIGN]を設立。家具、家電、日用品のプロダクトデザインを軸に、ブランディング、アートディレクションなどを行う。

LEXUS  
NEW  
TAKUMI  
PROJECT